令和８年11月４日発行

みんなかがやく！（江東区教育委員会テーマ）
ブリリアンス　Next Stage　第14号
～ありのままに今を輝く～
江東区立南砂中学校だより



校　長　　近藤　啓太

Let’s go ！ 南中Revolution　文化祭【10月24日（土）】





≪１年生≫客観的な視点から深める学び

1年生は、SDGs（持続可能な開発目標）をテーマにした探究学習の発表でした。

生徒たちは、自らの先入観にとらわれることなく、アンケートやインタビューなどのフィールドワークを積極的に実施し、集めたデータを客観的に分析しながら発表に臨みました。

例えば、「多様性社会の是非」という難しいテーマに対して、多角的な視点から鋭く問題提起を行うなど、質の高い探究学習の成果が見られました。これらの学びを更に次の一歩へとつなげてほしいと思います。

1. **新たな問いを立てる:**現状に満足せず、さらに課題をみつける力へ
2. **行動する:**調べたことで終わらせず、具体的に動く力へ
3. **発信する:**周囲や社会へ発信し、巻き込む力へ

社会の課題を自分事として捉え、自ら考え行動できる力を高めていけるよう、今後も温かく見守り支援します。

≪２年生≫表現力と行動力が光る



2年生の発表では、豊かな響きを届けた器楽演奏や合唱に加え、移動教室での3日間を再現するユニークなプログラムでした。



生徒一人ひとりが自分の持ち味を発揮しつつ、普段とは一味違う意外な一面を見せるなど、会場は笑顔と温かい雰囲気に包まれました。

発表の素晴らしいところは、単に「楽しかった思い出」を振り返るだけに留まらなかった点です。宿泊先のホテルで外国籍のスタッフに自主的にインタビューを行うなど、これまでにない取り組みの成果も盛り込まれていました。豊かな表現力と一歩踏み出す行動力を見せてくれた2年生の成長が、強く実感できる発表でした。

≪３年生≫データと発想力で描く未来

3年生は、「15年後の私たち」をテーマに、最高学年らしい深みのあるテーマでの発表を行いました。

非婚率の上昇や高齢化に伴う社会保障の変化、高卒・大卒の賃金格差の縮小、医療の未来予測など、様々な客観的データを基に社会の未来像を分析しました。そして、それらのデータから予想される自分たちの将来の生活や家族の形を「コント仕立て」で表現しました。発表の中で、「これからの時代も、AIにはできない、人間にしかできないことがある」、「生涯を通じて学び続けることが大切である」という力強いメッセージを投げかけました。



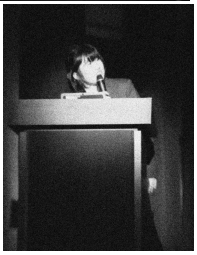




変化の激しい未来を恐れるのではなく、データに基づき現実を見据えながら、主体的に生き抜こうとする-最高学年としての頼もしい姿に、深い感動を覚えました。



■有志発表：小グループによるダンスや歌など、個性あふれる演目が披露されました。自分たちの持ち味を力いっぱい表現する姿に、会場からは温かい拍手が送られました。
■ 短期留学：現地で話題の日本食ホットドッグや湖の魅力をクイズ形式で楽しく紹介。「真の国際交流には相手国だけでなく、まず自国の文化を深く理解することが不可欠」という、実体験に基づく本質的な学びを届けてくれました。



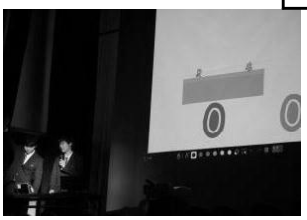
■科学部：スライムをつくるための成分比を変えたりレモン汁等を入れたり、一番心地よい固さを探究しての発表でした。科学部は期間限定の有志による活動で、30日（金）に行われた「江東区連合理科発表会」でも発表をしました。
■合唱・卓球部：『小さな恋のうた』『SMILE～晴れ渡る空のように～』今年はマイクを使わず、肉声で勝負。曲によってソプラノ・アルト・テノールのパートを柔軟に入れ替える工夫を取り入れた、爽やかな合唱ステージでした。
■吹奏楽部：『残酷な天使のテーゼ』『恋』おなじみの名曲をポップに演奏。客席からの手拍子を呼びかけ、会場全体で盛り上がる参加型ステージ。
■デジタルクリエイティ部：動画制作やゲーム制作など、部員の自由な発想と技術を活かしたクリエイティブな活動成果の発表。
■和太鼓部：24名が日々の練習の成果を結集し、心をひとつにして打ち鳴らす迫力あふれる和太鼓演奏。寸分の乱れない連打が圧巻。
■全校合唱：「ふるさと」「HEIWAの鐘」
小規模校だから可能な、全校生徒が舞台に並んでの合唱。詞を詠み込み心をこめた2曲は、ふるさとへの愛情、平和への力強い祈りです。
　一人ひとりが主役として挑戦できる機会があるのは、小規模校ならではの大きな強みです。まさに「Small School, Big Chance」を体現する、エネルギーに満ちたステージでした。



江東区連合理科発表会
10月30日（金）都立科学技術高校









伝統のバトンを受け継ぐ未来への新たな一歩



50周年式典のトリ-全校合唱

　爽やかな秋晴れに恵まれた10月31日（土）、江東区長の大久保朋果様をはじめ、多数のご来賓、地域の皆様、PTAサポーターの皆様にご臨席いただき、本校体育館にて「開校50周年記念式典」を無事に挙行いたしました。開校以来、半世紀にわたり本校を温かく支えてくださったすべての皆様に、心より深く感謝申し上げます。
　式典は、本校和太鼓部による迫力あるオープニング演奏「祝い太鼓」で華やかに幕を開けました。
　生徒代表（3年Kさん）による「祝いの言葉」では、ハナミズキの花言葉である「感謝」と「返礼」に触れながら、地域や教職員への感謝とともに、「50年の伝統のバトンと共に彩る南中の新たな一歩」を踏み出す力強い誓いが語られました。
　続く全校合唱では、生徒が心を一つにし、生徒の指揮と伴奏のもと『ふるさと』と『HEIWAの鐘』、そして校歌を体育館いっぱいに響かせました。「生徒の歌に涙が出た」という声を何人もからいただきました。想いのこもった素晴らしい合唱でした。江東区で最も規模の小さな中学校だからこそ、一人ひとりが主役となり心が通い合う姿を見せてくれました。
　私からは式辞において、OB会「四つ葉の会」からご寄贈いただき、夏の猛暑を乗り越えて青々と葉を芽吹かせた7本のハナミズキのように、どんな困難もしなやかに乗り越えるたくましさを育んでほしいこと、そして今年度のテーマである「ありのままに今を輝く」姿を大切にしてほしいことを伝えました。また、今年永眠された校歌作曲者・降旗耀子先生への感謝とともに、伝統の旋律を未来へ歌い継ぐ決意や、3年生の修学旅行での長崎訪問や校内に植樹した「被爆クスノキ二世」を通して学んだ平和への誓いについてもお話ししました。
　この素晴らしい節目を無事に迎えることができたのは、企画・運営に尽力いただいた周年実行委員会やPTAの皆様、そして日々生徒を温かく見守り育んでくださる地域の皆様のおかげです。
　いただいた温かい励ましを胸に、南砂中学校はこれからも地域と共に歩み、次なる未来へ向かってさらなる飛躍を目指します。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。